

令和5年度 アスパラガス栽培基準

巻岐市スマート農業推進協議会

月	旬	1 年 目		2 年 目									
		主要作業	作業の要点	主要作業	作業の要点								
1	上	圃場準備 ハウス建設	<p>品 種：ウエルカム（セル苗購入）</p> <p>圃場準備 耕盤破碎と有機物・堆肥・石灰資材の投入を十分に行う。</p> <p>60cm以上深耕し、有効作土層を確保する。 （注）深耕に際して天地返しは行わない 必要に応じて明渠、暗渠を設置する（暗渠はできるだけ畦毎に設置する）。</p> <p>外張りビニールは、夏季の昇温抑制効果のある光散乱フィルムを検討する。</p> <p>○定植 栽植密度(例) (10a当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設規模</th> <th>畦幅</th> <th>株間</th> <th>栽植本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>間口6.0m</td> <td>1.5m</td> <td>25cm</td> <td>2,660本</td> </tr> </tbody> </table>	施設規模	畦幅	株間	栽植本数	間口6.0m	1.5m	25cm	2,660本	<p>灌 水</p> <p>冬肥施用 保温開始</p>	<p>・保温開始前に十分灌水しておく。</p> <p>・二重カーテン（または9尺トンネル）を必ず設置する。霜、低温による被害軽減にパオパオやパスライト等の資材被覆は有効である。</p> <p>・すきま風対策を実施し、保温を図る。</p> <p>・保温開始は1月20日頃とする。</p> <p>・萌芽揃いまで換気しない。萌芽後は日中30℃以上になれば換気し、夜間は密閉する（3月以降は25℃で換気）。</p> <p>・収穫期間中は適宜灌水する（必ず晴天日の午前中に3～4日おきに行い、畦表面の湿度を保つ）。</p> <p>・萌芽茎が27～28cmになれば地際部から収穫する。</p> <p>・立茎時期の目安 収穫開始から30日経過した頃に検討し、立茎時期が遅れないように注意する。</p>
	施設規模			畦幅	株間	栽植本数							
	間口6.0m			1.5m	25cm	2,660本							
中													
下													
2	上	<p>基肥施用 ビニール被覆 二重カーテン △ 定植 △ 灌水 △</p>	<p>○定植 栽植密度(例) (10a当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設規模</th> <th>畦幅</th> <th>株間</th> <th>栽植本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>間口6.0m</td> <td>1.5m</td> <td>25cm</td> <td>2,660本</td> </tr> </tbody> </table> <p>・老化苗は生育が劣るので、定植適期の苗をやや深植えする。</p> <p>・定植後は保温に努め、適宜灌水し活着を促す。</p> <p>○整枝、誘引 長さ1.5m程度の支柱を2m間隔で畦の両側に平行に立てる。 茎葉の倒伏防止のためネットまたはテープを利用し、畦上30cmと1.1mの高さに張る。</p>	施設規模	畦幅	株間	栽植本数	間口6.0m	1.5m	25cm	2,660本	<p>●収穫開始 温度管理 灌 水</p>	<p>・萌芽揃いまで換気しない。萌芽後は日中30℃以上になれば換気し、夜間は密閉する（3月以降は25℃で換気）。</p> <p>・収穫期間中は適宜灌水する（必ず晴天日の午前中に3～4日おきに行い、畦表面の湿度を保つ）。</p> <p>・萌芽茎が27～28cmになれば地際部から収穫する。</p> <p>・立茎時期の目安 収穫開始から30日経過した頃に検討し、立茎時期が遅れないように注意する。</p> <p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>
	施設規模			畦幅	株間	栽植本数							
	間口6.0m			1.5m	25cm	2,660本							
中													
下													
3	上	<p>△ 定植 △ 灌水 △</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>温度管理 礼肥施用 立茎開始</p>	<p>○整枝、誘引 (1) 倒伏防止を徹底する（2段誘引）。 (2) 親茎先端の葉が展開し始めた頃に120～150cmの高さで摘芯する。摘心高はハウスの大きさ等により調整する。また、50～70cm以下の下枝、ひこばえは除去する。 (3) 上位節から発生する二次分枝、三次分枝は8月中旬まで、下位節からの二次分枝は9月末まで全て除去する。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月よりヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○追肥 ・6月中旬より液肥（N成分で1～1.5kg/10a・回）を月2回施用する。併せて、発根促進剤を月1～2回施用する。また、7月にLPコート100日タイプを30kg/10a施用する。</p> <p>○灌水 ・適宜灌水して畦の表面が乾かないようにする。目安として5t/5日、夏場は5t/2日程度の灌水を行う。</p> <p>○下温対策 ・夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。</p> <p>・外張りビニール張替の際は、夏季の昇温抑制効果のある光散乱フィルムを検討する。</p>								
	中												
	下												
4	上	<p>ハウス換気始め</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>誘 引</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												
5	上	<p>灌水 不良株植替え 支柱立て</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>整 枝</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												
6	上	<p>黄色蛍光灯 点灯開始 農薬散布 (茎枯病、褐斑病 スリップス予防)</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>黄色蛍光灯 点灯開始</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												
7	上	<p>灌水 下温対策 誘 引 追 肥</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>灌 水</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												
8	上	<p>茎の整理 灌 水</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>黄色蛍光灯 点灯開始</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												
9	上	<p>農薬散布 (ヨトウムシ類、 褐斑病予防)</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>農薬散布 (ヨトウムシ類、 褐斑病予防)</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												
10	上	<p>黄色蛍光灯の 点灯終了</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>●収穫終了 ビニール 開放</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												
11	上	<p>黄色蛍光灯の 点灯終了</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>黄色蛍光灯 点灯終了 農薬散布 (褐斑病)</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												
12	上	<p>× 全刈り バーナー焼却 冬肥施用</p>	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。</p> <p>・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>灌 水</p>	<p>○立茎の方法 (1) 日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3) アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>								
	中												
	下												

月	旬	主要作業	3年目以降															
			作業の要点															
1	上	× 全刈り バーナー焼却 冬肥施用	● 収穫開始	<ul style="list-style-type: none"> ・保温開始前に十分灌水しておく。 ・土壌分析結果に基づき冬肥施用を行う。 ・二重カーテン（または9尺トンネル）を必ず設置する。 ・2月10日以降に保温を開始する。 ・すきま風対策を実施し、保温性を高める。 ・萌芽揃いまで換気しない。萌芽後、日中30℃以上になれば換気し夜間は密閉する。 ・収穫期間中は適宜灌水する（必ず晴天日の午前中に3～4日おきに行い、畦表面の湿度を保つ）。 ・3月以降は25℃で換気し、夜間は保温に努める。 ・萌芽茎が27～28cmになれば地際部から切り取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立茎時期の目安 * 3年目以降…4月中旬～4月下旬 * 春どり収穫開始40～50日頃に立茎を始める。 * 株の勢いが弱い部分は早めに立茎する。 * 強勢株や立茎が早く揃った株などは引き続き収穫する。 ・立茎開始時より、褐斑病、スリップスの防除体系に従って農薬散布を行う。 													
	中					<ul style="list-style-type: none"> ○立茎の方法 (1) 細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良い揃ったものを10本/m程度立茎する。病害虫の被害が認められた場合のみ新しい茎に更新する。 (2) 立茎はこぶし大（約10cm）以上離れた場所のものを残す（1芽1本）。 												
	下						<ul style="list-style-type: none"> ○黄色蛍光灯点灯 ・6月よりヤガ類飛来防止として黄色灯の点灯を開始する。目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。 ○追肥・発根促進剤施用 ・6月中旬より液肥を施用する（N成分で1.5kg/10a・回、月2回）。併せて、発根促進剤を月1～2回施用する。また、7月にLPコート100日タイプを30kg/10a施用する。 ○整枝、誘引 (1) 倒伏防止を徹底する（2段誘引）。 (2) 親茎先端の葉が展開し始めた頃に120～150cmの高さで摘芯する。摘心高はハウスの大きさ等により調整する。また、50～70cm以下の下枝、ひこばえは除去する。 (3) 上位節から発生する二次分枝、三次分枝は8月中旬まで下位節からの二次分枝は9月末まで全て除去する。 ・適宜灌水して畦の表面が乾かないようにする。目安として5t/5日、夏場は5t/2日程度の灌水を行う。 											
2	上	灌水 保温開始						● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ○下温対策の徹底 ・ハウス換気の徹底、クレフノンや寒冷紗による遮光を図り、ハウス内温度が上がらないようにする。 ・外張りビニール張替の際は、夏季の昇温抑制効果のある光散乱フィルムを検討する。 									
	中									<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 								
	下										<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 							
3	上	灌水 温度管理										● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 					
	中													<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 				
	下														<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 			
4	上	灌水														● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 	
	中																	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。
	下																	
5	上	農薬散布	● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 														
	中				<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 													
	下					<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 												
6	上	黄色蛍光灯 点灯開始 整枝 追肥					● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 										
	中								<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 									
	下									<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 								
7	上	下温対策									● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 						
	中												<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 					
	下													<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 				
8	上	台風対策 農薬散布 (ヨトウムシ類)													● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 		
	中																<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 	
	下																	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。
9	上	農薬散布 (褐斑病)	● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 														
	中				<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 													
	下					<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 												
10	上	● 収穫終了 ビニール開放 黄色蛍光灯 点灯終了					● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 										
	中								<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 									
	下									<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 								
11	上	× 全刈り バーナー焼却 茎枯病予防 冬肥施用 除草剤散布									● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 						
	中												<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 					
	下													<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 				
12	上	× 全刈り バーナー焼却 茎枯病予防 冬肥施用 除草剤散布													● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 		
	中																<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 	
	下																	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。
1	上	× 全刈り バーナー焼却 茎枯病予防 冬肥施用 除草剤散布	● 収穫終了	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。 ◎夏芽どりの注意点 (1) 収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2) 高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝、夕方の2回収穫する。 														
	中				<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 													
	下					<ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後はビニールを開放し冷気にさらす。 ・乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（11～12月は7～10日に1回は灌水する。株養成において水分は必要） ・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2、3回）。 												

◎施肥基準 *必ず土壌分析結果に基づき施用する。

1年目					kg/10a
肥料名	定植前	追肥	成分量	備考	
堆肥	20,000			N :25.2 P ₂ O ₅ :25.6 K ₂ O :12	未熟堆肥は使用しない
粒状セルカ	120				
アスパラエース1号	120				
BMようりん	80				
LPコート100日		20			

2年目以降					kg/10a
肥料名	冬肥	礼肥	追肥	成分量	
堆肥	3,000			N :43.4 P ₂ O ₅ : 8.8 K ₂ O : 8.2	
粒状セルカ	80	80	80		
アスパラエース2号	60	80			
LPコート100日			30		
サスペンジョン7号			80		

* 冬肥は1月（保温開始前）、礼肥は立茎時（4月）、追肥は立茎完了後～7月にそれぞれ施用する。

最終追肥は10月中旬頃までとする。

冬肥は土壌分析結果により施用量を加減する。

* 灌水チューブ下や畦表面に硬い層ができた場合は、全刈り後に軽く耕耘し、水分や肥料成分が吸収しやすい状態に改善する。

アスパラガスの病害虫防除基準

病害虫名	薬剤名	使用濃度・量	使用期間	使用回数	
茎枯病	ベンレート水和剤	2000倍	収穫前日	4回	
	キントーフロアブル	600～800	3日	5	
	ロブール水和剤	2000	前日	5	
	アフェットフロアブル	2000	前日	4	
斑点病	ダコニール1000	1000	前日	4	
	コサイド3000	2000	—	—	
	アミスター20フロアブル	2000	前日	4	
	ストロビーフロアブル	2000	前日	3	
	ラリー水和剤	4000	前日	2	
褐斑病	ダコニール1000	1000	前日	4	
	コサイド3000	2000	—	—	
	ベルコート水和剤	1000	7日	5	
	アミスター20フロアブル	2000	前日	4	
	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000	前日	3	
立枯病	トリフミン水和剤	1000・3ℓ/m ²	7日	1	
	トップジンM水和剤	1000	収穫開始7日	5	
ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤	2000	前日	2	
	カスケード乳剤	4000	前日	2	
	アフアーム乳剤	2000	前日	2	
	ブレオフロアブル	1000	前日	2	
	コテツフロアブル	2000	前日	2	
	プレバソフロアブル5	2000	前日	3	
	ディアナSC	2500～5000	前日	2	
	ベネビアOD	4000	前日	3	
	アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	4000	前日	2
		ダントツ水溶剤	2000～4000	前日	3
アドマイヤー顆粒水和剤		5000	前日	2	
スピノエース顆粒水和剤		5000	前日	2	
ディアナSC		2500～5000	前日	2	
ハチハチフロアブル		1000	前日	2	
コルト顆粒水和剤		4000	前日	3	
ウララDF		2000	前日	3	
モベントフロアブル		2000	前日	3	
ベネビアOD		2000	前日	3	
アブラムシ類	リーファート顆粒水和剤	1500	前日	2	
	ファインセーブフロアブル	2000	前日	2	
	モスピラン顆粒水溶剤	4000	前日	2	
ハダニ類	ウララDF	2000	前日	3	
	アーデント水和剤	1000	前日	2	
	コテツフロアブル	2000	前日	2	
	コロマイト乳剤	1000	前日	2	
	マイトコーネフロアブル	1000	前日	1	
オオタバコガ	スターマイトフロアブル	2000	前日	1	
	ダニコングフロアブル	2000	前日	2	
	アーデント水和剤	1000	前日	2	
ナメクジ	スラゴ粒剤	1～5g/m ²	発生時	—	

注)コサイド3000は、汚れ防止のためスキャッシュ2,000倍を加用し、薬害防止のため、使用回数は連続2回以内とし近接散布しない。

アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは、散布液が乾きにくい条件下では薬害を生じる恐れがあるので、夕方や降雨直前・直後には散布しない。また、展着剤の加用、他剤および葉面散布との混用を避ける。